

2020年6月5日

各 位

「第55回ENEOS児童文化賞」および「第50回ENEOS音楽賞」の受賞者決定

当社（社長：杉森 務）は、「第55回 ENEOS児童文化賞^{※1}」および「第50回 ENEOS音楽賞^{※1}」の受賞者を決定しましたので、お知らせいたします。

当社は、1966年に児童文化賞、1971年に音楽賞を創設して以来、約半世紀にわたり、わが国の児童文化・音楽文化の発展に大きな業績をあげられた個人または団体を顕彰してまいりました。今年度も選考委員会^{※2}による審議により、受賞者を決定しました。

なお、正賞としてトロフィー、副賞として賞金200万円を贈呈し、表彰式は11月20日（金）にパレスホテル東京（東京都千代田区）において開催する予定です。

名称		氏名（敬称略）	分野
第55回 ENEOS児童文化賞		落合 恵子 （おちあい けいこ）	作家
第50回ENEOS音楽賞	邦楽部門	伶 楽 舎 （れいがくしゃ）	雅楽演奏グループ
	洋楽部門	本賞 佐藤 美枝子 （さとう みえこ）	ソプラノ
		奨励賞 アントネッロ （主宰：濱田 <small>はまだ</small> 芳通 <small>よしみち</small> ）	古楽アンサンブル

以 上

※1 本年6月に予定しております当社の商号変更に伴い「JXTG児童文化賞」、「JXTG音楽賞」から「ENEOS児童文化賞」、「ENEOS音楽賞」に名称を変更します。

※2 選考委員会委員（順不同、敬称略）

【児童文化賞】

野上 暁（児童文化研究家）、仲居 宏二（放送コンサルタント・元聖心女子大学教授）
山極 壽一（京都大学総長）

【音楽賞 邦楽部門】

徳丸 吉彦（聖徳大学教授・お茶の水女子大学名誉教授）、塚原 康子（東京藝術大学教授）
加納 マリ（日本音楽研究家）

【音楽賞 洋楽部門】

関根 礼子（音楽評論家）、中村 孝義（大阪音楽大学理事長・名誉教授）
船木 篤也（音楽評論家）

<添付資料>

1. 「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」の贈賞理由ならびに受賞者のプロフィール
2. 「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」の概要
3. 「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」の選考委員プロフィール
4. 「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」歴代受賞者リスト

「第55回 ENEOS児童文化賞」および「第50回 ENEOS音楽賞」 贈賞理由ならびに各受賞者のプロフィール

1. 第55回 ENEOS児童文化賞

落合 恵子 (おちあい けいこ)
作家



©神ノ川 智早

◆ 贈賞理由 ◆

アナウンサーとして活躍した後、作家活動に入り、海外取材で子どもの本専門店を見たのがきっかけで、1976年に本をはさんで大人と子どもが向かい合う場として児童書専門店「クレヨンハウス」を開店。育児のための総合雑誌『月刊クーヨン』や、子どもに本を選んで送る「絵本の本棚」を企画するなどのほか、長年にわたり子どもと本の架け橋となって、それまでの多彩な活躍をもとに、様々なメディアで子どもの本を紹介し普及。自らも絵本の翻訳や創作をするとともに、「子どもの本の学校」を主宰して子どもの本に関わる多様な人々の交流の場を作るなど、「7世代先の子どもたちのことを考える」という理念で、精力的に子どもの文化全般に寄与した功績は絶大である。

(児童文化賞 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

栃木県生まれ。小学校に入学する前に上京。大きな原っぱと向かい合うように建ったアパートで母親と暮らしを始める。原っぱは植物や虫たちの宝庫で、植物図鑑や図鑑類が当時の愛読書だった。学生時代の愛読書は、キャサリン・マンズフィールド、アン・ポーター等欧米の女性作家。民放ラジオ局に就職し、当時取材で訪れた欧米の子どもの本の専門店に強く心惹かれる。そして、「ないなら、創る！」とクレヨンハウスを創設。東京店は2020年12月でオープン45周年を迎え、オーガニックレストラン、子どもと大人の本のフロア、安全安心な玩具、女性の本やオーガニックな生活必需品を扱う。大阪店は、29年になる。総合育児雑誌『月刊クーヨン』、オーガニックマガジン『いいね』発行人。絵本の刊行や、翻訳も多数手がける。最近の著書に『泣きかたをわすれていた』『明るい覚悟』などがある。

◆ 主な受賞歴 ◆

- 1982年 第2回日本文芸大賞女流文学賞
- 1987年 日本ジャーナリスト会議奨励賞
- 1988年 日本婦人放送者懇談会賞
- 1994年 第41回産経児童出版文化賞 「そらをとんだたまごやき」
- 1998年 第45回産経児童出版文化賞 「子どもたちの戦争」(翻訳)
- 1998年 エイボン女性年度賞功績賞

2. 第50回 ENEOS音楽賞 邦楽部門

伶楽舎 (れいがくしゃ) 雅楽演奏グループ



写真提供：伶楽舎

◆ 贈賞理由 ◆

伶楽舎は、1985年から今日に至るまでの35年間、創立者・芝祐靖の薫陶を受け、雅楽に関わる全方位の活動を続けてきた。古典曲はもとより、武満徹『秋庭歌一具』に代表される新作曲の演奏に加え、廃絶曲の復曲にも意欲的に取り組み、清新で優れた演奏や録音を通して雅楽の魅力を国内外に発信する一方、子どもや入門者に向けたきめ細かな雅楽普及活動も精力的にこなしている。宮内庁楽部を軸に展開してきた近代日本の雅楽伝承の中で、女性奏者を含む民間の新しい雅楽演奏団体として、合奏音楽である雅楽の可能性開拓と奏者個々人の音楽的挑戦とともに追究し、比類ない実績を挙げてきた点を高く評価する。伶楽舎の活動がさらに世代を越え、21世紀の雅楽に寄与することを祈念する。

(音楽賞邦楽部門 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

雅楽の合奏研究を目的に、1985年に発足した雅楽演奏グループ。創立者・芝祐靖。音楽監督・宮田まゆみ。発足以来、現行の雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏にも積極的に取り組み、国内外で幅広い活動を展開している。新作雅楽、現代雅楽の分野では、多くの作曲家に作品を委嘱し、自主企画公演で度々初演。また、武満徹『秋庭歌一具』の演奏に関しては定評があり、国内外で数多く再演している。他に、解説を交えた親しみやすいコンサートを企画。また、雅楽を未来へ繋ぐべく、子どものための雅楽プロジェクトを展開し、CD、DVDを制作。全国の小中学生を対象としたワークショップや演奏会も多く行っている。「伶楽舎」とは、古代中国の楽人の祖とされる「伶倫」に因んだ「伶倫楽遊舎」を略称した会名で、現行の雅楽のみならず、廃絶曲や新作など、従来の枠にとらわれない幅広い活動を目指して、芝祐靖によって名付けられた。

◆ 主な受賞歴 ◆

2002年 第20回中島健蔵音楽賞特別賞

2016年 第16回佐治敬三賞

3. 第50回 ENEOS音楽賞 洋楽部門本賞

佐藤 美枝子 (さとう みえこ)
ソプラノ



©武藤 章

◆ 贈賞理由 ◆

柔らかな美声と高度のテクニック、普遍性に富んだ音楽性で大輪の花を数々咲かせてきた佐藤美枝子氏は今、一層の円熟期を迎えている。最初に世界的な注目を集めたのは1998年、チャイコフスキー国際コンクールでの堂々優勝だった。以後20年余、軽やかなコロラトゥーラと滑らかなベルカントを大きな魅力に、『ランメルモールのルチア』や『ランスへの旅』他で本領を発揮。『夕鶴』等の日本オペラでも、日本語と日本女性本来の声を磨き上げた歌唱力で作品世界を深めた。さらにそこに留まることなく、自身の年齢や声の変化に応じて表現の幅を無理なく広げること成功。2020年2月、藤原歌劇団『リゴレット』のジルダでの見事な演唱が大器ぶりを実証した。今後、芸域のさらなる深まりに期待したい。

(音楽賞洋楽部門 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

大分県生まれ。武蔵野音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了後、イタリアに留学。留学中に第7回五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞し、1997年より(公財)五島記念文化財団の奨学生としてさらに2年間イタリアで研鑽を積む。1998年第11回チャイコフスキー国際音楽コンクール声楽部門で日本人初の第1位を受賞し注目を集めた。藤原歌劇団には2000年に最も得意とする「ランメルモールのルチア」のタイトルロールでデビュー。日本を代表するソプラノとして藤原歌劇団、新国立劇場をはじめ、国内外多数のオペラに出演している他、オーケストラとの共演や全国各地でのリサイタル等、幅広く活躍している。CDは「至上のルチア」「ああ、信じられないわ～オペラ・アリア集」など7枚をリリース。武蔵野音楽大学教授、大分県立芸術文化短期大学客員教授。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。

◆ 主な受賞歴 ◆

- 1994年 第30回日伊声楽コンクールソ 第2位
- 1995年 第64回日本音楽コンクール声楽部門 第1位、増沢賞受賞
- 1996年 第7回五島記念文化賞オペラ新人賞
- 1998年 第11回チャイコフスキー国際コンクール声楽部門 第1位(日本人初)
- 1999年 第9回出光音楽賞、第2回ロシア歌曲賞
- 2000年 第10回新日鉄音楽賞(現・日本製鉄音楽賞)フレッシュアーティスト賞
- 2015年 下總皖一音楽賞

4. 第50回 ENEOS音楽賞 洋楽部門奨励賞

アントネッロ (主宰：濱田^{はまだ} 芳通^{よしみち})
古楽アンサンブル



舞台写真：藤井 亜紀

◆ 贈賞理由 ◆

中世からバロック期までの音楽を、往時の楽器と奏法を蘇らせ演奏する古楽アンサンブルは、今や数多ある。そこに独自の演奏スタイルを盛り込む者も然り。濱田芳通氏ひきいるアントネッロが唯一無二の存在感を放っているのは、その上で「創造的ファンタジー」を大胆に発揮しているからだ。レオナルド・ダ・ヴィンチが統括したと思しき祝祭劇「オルフェオ物語」を舞台化した試みなどは、その最たるもの。当時のさまざまな音楽素材を当てはめ「復元」を敢行。まさに挑戦だが、今しも書かれたかのように極めて生き生きと表現されるため、聴く者の心を捉え、想像力を刺激する。外部の演奏家を結集させる企画力も秀逸。前例に囚われない道をさらに歩まれることを願い、奨励賞を贈る。

(音楽賞洋楽部門 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

1994年結成のアントネッロは、主宰 濱田芳通と、石川かおり、西山まりえをコアメンバーとし「作品が生まれた時のスピリット」を大切に、躍動感、生命力が備わった、音楽の持つ根源的な魅力を明らかにしてきた。国内外のレーベルからCDをリリースしており、古楽の解釈と演奏において第一線で活躍するグループとして、常にメディアから高い評価を得ている。クラシック音楽の既存概念の枠を超えて純粋に「音楽性」を求めるその企画、作品は、クラシック音楽ファン以外からも注目と共感を集めている。2013年に立ち上げたバロック・オペラ上演プロジェクト「オペラ・フレスカ」では、クラウディオ・モンテヴェルディの3大オペラの上演や、ジュリオ・カッチーニ作曲「エウリディーチェ」(世界最古のオペラ譜)本邦初演、2019年にはレオナルド・ダ・ヴィンチが関わったとされる「オルフェオ物語」を本邦初演する等、海外においても上演機会の少ないオペラ創成期の作品を中心に、その魅力を伝えるべく精力的に取り組んでいる。

◆ 主な受賞歴 ◆

2005年 第7回ホテルオークラ音楽賞

2015年 第28回ミュージック・ペンクラブ・ジャパン音楽賞 (室内楽・合唱部門)

2015年 第14回佐川吉男音楽賞

「ENEOS 児童文化賞」および「ENEOS 音楽賞」の概要

当社は、ENEOS 児童文化賞および ENEOS 音楽賞を日本の児童文化、音楽文化の発展・向上に大きく貢献した個人または団体をたたえる目的で創設しました。毎年、児童文化賞、音楽賞邦楽部門、音楽賞洋楽部門本賞、音楽賞洋楽部門奨励賞の 4 賞につき、各々 1 個人または 1 団体を選出し、それぞれトロフィーと副賞賞金 200 万円を贈呈しております。

【ENEOS 児童文化賞】

1966 年に創設した児童文化賞は、今年で 55 回を数える歴史ある賞に発展しました。受賞者と受賞分野の多彩さがこの賞の特色であり、童画家、教育者、写真家、児童文学作家、子供新聞の編集者、ミュージカル主宰者など、全国的に著名な活動から地域の活動まで、児童文化の各種分野から幅広く受賞者が選ばれています。

【ENEOS 音楽賞】

1971 年に創設した音楽賞は今年で 50 回目を迎えます。また、洋楽部門では 1989 年から、日本を代表する優れた若手音楽家を讃えるために奨励賞を設けました。邦楽部門においては、これまでに 23 人の受賞者が重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されています。邦楽部門・洋楽部門を併せ持ち、単年度内の功績ではなく、それまでの実績全体に視点をおいた選考を行っている点がこの賞の特色です。

選考方法

児童文化界、音楽界の有識者の方々に受賞候補者の推薦を依頼し、その結果を参考にして、各部門 3 名の選考委員により構成される選考委員会において審議の上、受賞者を決定いたします。

「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」 選考委員プロフィール

【児童文化賞】



野上 暁 氏（児童文化研究家）

中央大学卒業。日本ペンクラブ常務理事。日本国際児童図書評議会副会長。日本児童文学学会会員。東京純心大学こども文化学科客員教授。著書に『おもちゃと遊び』、『“子ども”というリアル』、『子ども学 その源流へ』、『越境する児童文学』、『子ども文化の現代史』、共編著に『こどもの本ハンドブック』、『いま子どもに読ませたい本』、『明日の平和をさがす本』など。



仲居 宏二 氏（放送コンサルタント・元聖心女子大学教授）

早稲田大学第一文学部哲学科卒業。NHKでは主に教育教養番組制作。学校放送番組部長、日本賞コンクール事務局長を経て、関連会社NHKエデュケーショナル常務取締役後、ボツワナ教育テレビ開設に引き続き、現在ベトナム、マラウイ、バングラデシュ、などの教育チャンネルのコンサルタントに当たっている。2012年より聖心女子大学教授を務め、2015年より同大学非常勤講師。



山極 壽一 氏（京都大学総長）

京都大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学。京都大学理学博士。人類学者、霊長類学者、ゴリラを主たる研究対象としている。（財）モンキーセンター リサーチフェロー、京都大学霊長類研究所助手、同大学院理学研究科助教授、教授を経て、現在京都大学総長。著書に『家族進化論』、『「サル化」する人間社会』、『京大式おもしろい勉強法』などがある。

【音楽賞 邦楽部門】



徳丸 吉彦 氏

(聖徳大学教授・お茶の水女子大学名誉教授)

東京大学文学部卒業。ラヴァール大学(カナダ)より博士号。国立音楽大学・お茶の水女子大学・放送大学を経て現在は聖徳大学教授、お茶の水女子大学名誉教授。日本語による最近の著作は『ものがたり日本音楽史』、『ミュージックスとの付き合い方：民族音楽学の拡がり』。他に『三味線音楽の旋律的様相』(仏語)、『音楽・記号・間テキスト性』(英独仏語)、共編に『ガーランド世界音楽辞典7：東アジア』(英語)がある。



塚原 康子 氏 (東京藝術大学教授)

東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了(学術博士)。現在、東京藝術大学楽理科教授。とくに近代を中心とする日本音楽史を専攻し、主要著書に『十九世紀の日本における西洋音楽の受容』、『明治国家と雅楽』、共著に『はじめての音楽史』、『日本の伝統芸能講座—音楽—』など。



加納 マリ 氏 (日本音楽研究家)

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科(音楽学専攻)修了。日本音楽史を専門に、雅楽、地方の舞楽、長唄、胡弓などを研究。文化庁芸術祭審査委員(音楽)、文化庁「次代を担う子どもの芸術体験事業」企画委員(伝統芸能)、文化庁芸術選奨選考委員(音楽)、国立劇場邦楽公演専門委員などを務める。

【音楽賞 洋楽部門】



関根 礼子 氏 (音楽評論家)

国立音楽大学楽理学科卒。音楽旬報社勤務中から音楽評論活動を行い、1981年よりフリー。現在、昭和音楽大学オペラ研究所嘱託研究員、『日本のオペラ年鑑』編纂委員、三菱UFJ信託芸術文化財団理事、東京オペラシティ文化財団理事、ニッセイ文化振興財団理事ほか。著書に『オペラの世界』、『日本オペラ史1953～』、共著に『オペラ事典』など。



中村 孝義 氏 (大阪音楽大学理事長・名誉教授)

関西学院大学大学院文学研究科博士課程修了。ヴェルツブルク大学音楽学研究所客員研究員、大阪音楽大学教授、同大学ザ・カレッジ・オペラハウス館長、大学院研究科長・学長を経て現在、理事長・名誉教授。さらに日本音楽芸術マネジメント学会理事長、(独法)日本芸術文化振興会基金運営委員会委員長、(公財)ロームミュージックファンデーション、(公財)アフィニス文化財団、(公財)花王芸術・科学財団など、多くの財団の理事や評議員を務める。著書に『室内楽の歴史』、『ベートーヴェン 器楽・室内楽の宇宙』、『音楽の窓』など。



船木 篤也 氏 (音楽評論家)

東京大学大学院とブレーメン大学に学ぶ。「読売新聞」で演奏評を、NHKで音楽番組の解説を担当。雑誌等でも執筆。東京藝術大学ほかでドイツ語講師。共著に『魅惑のオペラ・ニーベルングの指環』、共訳書に『アドルノ 音楽・メディア論』など。(公財)アフィニス文化財団・オーケストラ助成専門委員、(独)日本芸術振興会・芸術文化振興基金専門調査員(音楽)、(公財)サントリー芸術財団・佐治敬三賞選考委員、日本ワーグナー協会理事。

「ENEOS児童文化賞」 歴代受賞者リスト (敬称略、*は故人)

回	年度	氏名・団体名	分野
1	1966	初山 滋* 日本童話会 (会長・後藤 樽根*)	童画家
2	1967	千葉省三* 人形劇団プーク (代表・川尻泰司*)	童話作家
3	1968	棕 鳩十* ダークダックス	児童文学者 コーラスグループ
4	1969	金沢嘉市* 市川市立養護学校の詩集「いずみ」	教育評論家
5	1970	眞理ヨシコ 戸塚 廉*	童謡歌手 「おやこ」新聞編集発行
6	1971	吉澤 章*	折り紙作家
7	1972	菅野邦夫	仙台市野草園園長
8	1973	アン・ヘリング	児童文学研究者
9	1974	滝平二郎*	きり絵作家
10	1975	辻村ジュサブロー	人形作家
11	1976	富田博之* 劇団「風の子」 (代表・多田 徹*)	青少年文化研究者
12	1977	坂本小九郎と湊中学校養護学級の生徒達	美術教育と版画制作
13	1978	佐野浅夫 瀬川康男*	俳優 絵本作家
14	1979	田沼武能	写真家
15	1980	渡辺茂男*	児童文学者
16	1981	ろばの会	作曲家グループ
17	1982	富山県立近代美術館 (館長・小川正隆*)	
18	1983	萩本欽一	TVタレント
19	1984	長崎県外海町 (町長・平野武光)	
20	1985	東京放送児童合唱団 (代表・近藤真司)	
21	1986	手で見るギャラリー・TOM (代表・村山亜土*・治江)	
22	1987	ボニージャックス	コーラスグループ
23	1988	人形劇カーニバル飯田実行委員会 (実行委員長・松澤太郎*)	
24	1989	岡本忠成*	アニメーション作家
25	1990	与田準一*	童謡・童話作家
26	1991	今西祐行*	児童文学作家
27	1992	「中学生日記」	NHKテレビ番組
28	1993	松居 直	福音館書店会長
29	1994	香川県大川郡大内町 (町長・中條弘矩)	
30	1995	「まんが日本昔ばなし」	テレビアニメ番組：愛企画センター制作
31	1996	神沢利子	児童文学作家
32	1997	阪田寛夫*	詩人・作家
33	1998	細川真理子	「札幌こどもミュージカル」代表
34	1999	太田大八*	絵本画家
35	2000	谷川俊太郎	詩人
36	2001	大原れいこ*	テレビ演出家
37	2002	長 新太*	絵本作家
38	2003	山中 恒	児童文学作家
39	2004	越部信義*	作曲家
40	2005	松谷みよ子*	作家
41	2006	演劇集団 円 円・こどもステージ	児童劇
42	2007	佐藤さとる*	児童文学作家
43	2008	今江祥智*	児童文学作家
44	2009	神宮輝夫	児童文学研究者・翻訳家
45	2010	今森光彦	写真家
46	2011	河合雅雄	霊長類学者
47	2012	加古里子*	児童問題研究者
48	2013	角野栄子	作家
49	2014	公益財団法人 東京子ども図書館	
50	2015	五味太郎	絵本作家
51	2016	あまんきみこ	児童文学作家
52	2017	萩尾望都	漫画家
53	2018	奥本大三郎	作家・フランス文学者
54	2019	那須正幹	児童文学作家
55	2020	落合恵子	作家

「ENEOS音楽賞」邦楽部門 歴代受賞者リスト (敬称略、*は故人)

回	年度	氏名・団体名	分野
1	1971	山口五郎*	琴古流尺八
2	1972	松崎倭佳* 稀音家幸*	長唄 唄方 長唄 三味線
3	1973	菊原初子*	地歌 箏曲
4	1974	田中伝左衛門*	歌舞伎 長唄囃子
5	1975	杵屋正邦*	現代邦楽作曲
6	1976	観世寿夫*	能楽 シテ方
7	1977	山彦河良*	河東節
8	1978	杵屋佐登代*	長唄 唄方
9	1979	鶴田錦史*	薩摩琵琶
10	1980	町田佳聲* 福原百之助*	邦楽研究評論 長唄 囃子笛方
11	1981	太田里子*	地歌 箏曲
12	1982	今藤長十郎*	長唄 三味線
13	1983	都一中*	一中節 三味線
14	1984	常磐津文字兵衛	常磐津節 三味線
15	1985	浅川玉兎* 竹本住大夫*	長唄研究 義太夫節太夫
16	1986	杵屋五三郎*	長唄 三味線
17	1987	中田博之*	箏曲
18	1988	平井澄子*	現代邦楽
19	1989	米川敏子*	箏曲
20	1990	日本音楽集団	現代邦楽創造グループ
21	1991	尺八三本会	尺八
22	1992	宮田哲男	長唄 唄方
23	1993	一噌幸政*	能楽笛方
24	1994	都一いき*	一中節
25	1995	藤井久仁江*	地歌 箏曲
26	1996	竹本駒之助	女流義太夫
27	1997	芝 祐靖*	雅楽
28	1998	観世榮夫*	能楽 シテ方
29	1999	鶴澤清治	文楽 三味線方
30	2000	田島佳子*	長唄 三味線方
31	2001	山本東次郎	大蔵流狂言
32	2002	川瀬白秋*	箏曲 胡弓
33	2003	大和久満*	大和楽 三味線方
34	2004	米川裕枝	箏曲
35	2005	味見 亨	長唄 三味線方
36	2006	野坂恵子*	箏曲
37	2007	横道万里雄*	楽劇評論
38	2008	今藤政太郎	長唄 三味線方
39	2009	藤舎呂船	邦楽囃子
40	2010	近藤乾之助*	能楽 宝生流 シテ方
41	2011	豊竹咲大夫	文楽義太夫節太夫
42	2012	清元美治郎	清元節 三味線方
43	2013	今藤尚之	長唄 唄方
44	2014	中川善雄	邦楽囃子 笛方
45	2015	沢井一恵	箏曲
46	2016	稀音家義丸	長唄演奏家・研究家
47	2017	豊竹呂太夫	文楽義太夫節太夫
48	2018	杵屋勝国	長唄 三味線方
49	2019	観世清和	能楽 観世流シテ方
50	2020	伶楽舎	雅楽演奏グループ

「ENEOS音楽賞」洋楽部門本賞 歴代受賞者リスト (敬称略、*は故人)

回	年度	氏名・団体名	分野
1	1971	江藤俊哉*	ヴァイオリン
2	1972	朝比奈 隆*	指揮
3	1973	東京室内歌劇場	オペラ
4	1974	巖本真理* 弦楽四重奏団	室内楽
5	1975	小澤征爾	指揮
6	1976	鈴木鎮一*	音楽教育
7	1977	園田高弘*	ピアノ
8	1978	音楽之友社	音楽総合出版
9	1979	小林道夫	チェンバロ
10	1980	二期会	声楽研究・オペラ公演
11	1981	武満 徹*	作曲
12	1982	渡辺暁雄*	指揮
13	1983	札幌交響楽団	オーケストラ
14	1984	野村光一*	音楽評論
15	1985	東 敦子*	ソプラノ
16	1986	藤原歌劇団	オペラ
17	1987	堤 剛	チェロ
18	1988	アンリエット・ヒュイグ=ロジエ*	ピアノ
19	1989	吉田雅夫*	フルート
20	1990	三善 晃*	作曲
21	1991	若杉 弘*	指揮
22	1992	中澤 桂*	ソプラノ
23	1993	和波孝禧	ヴァイオリン
24	1994	松村禎三*	作曲
25	1995	今井信子	ヴィオラ
26	1996	秋山和慶と東京交響楽団	
27	1997	畑中良輔*	バリトン・音楽評論
28	1998	松本美和子	ソプラノ
29	1999	鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパン	
30	2000	大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス	
31	2001	西村 朗	作曲
32	2002	海老彰子	ピアノ
33	2003	福井 敬	テノール
34	2004	小栗まち絵	ヴァイオリン
35	2005	中村紘子*	ピアノ
36	2006	モーツァルト劇場(主宰:高橋英郎)	オペラ
37	2007	前橋汀子	ヴァイオリン
38	2008	ゲルハルト・ボッセ*	指揮
39	2009	大野和士	指揮
40	2010	田中信昭	合唱指揮
41	2011	公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団	オーケストラ
42	2012	館野 泉	ピアノ
43	2013	小山実稚恵	ピアノ
44	2014	佐々木典子	ソプラノ
45	2015	寺神戸亮	ヴァイオリン・指揮
46	2016	井上道義	指揮
47	2017	モルゴーア・クアルテット	弦楽四重奏
48	2018	池辺晋一郎	作曲
49	2019	尾高忠明	指揮
50	2020	佐藤美枝子	ソプラノ

「ENEOS音楽賞」洋楽部門奨励賞 歴代受賞者リスト (敬称略)

回	年度	氏名・団体名	分野
1	1989	吉野直子	ハープ
2	1990	漆原朝子	ヴァイオリン
3	1991	長谷川陽子	チェロ
4	1992	佐久間由美子	フルート
5	1993	仲道郁代	ピアノ
6	1994	錦織 健	テノール
7	1995	千住真理子	ヴァイオリン
8	1996	高橋薫子	ソプラノ
9	1997	樫本大進	ヴァイオリン
10	1998	若林 顕	ピアノ
11	1999	佐野成宏	テノール
12	2000	横山幸雄	ピアノ
13	2001	森 悠子主宰長岡京室内アンサンブル	
14	2002	矢崎彦太郎	指揮
15	2003	川田知子	ヴァイオリン
16	2004	斉田正子	ソプラノ
17	2005	渡辺玲子	ヴァイオリン
18	2006	篠崎和子	ハープ
19	2007	藤村実穂子	メゾソプラノ
20	2008	幸田浩子	ソプラノ
21	2009	趙 静	チェロ
22	2010	藤倉大	作曲
23	2011	粟國淳	オペラ演出
24	2012	山崎伸子	チェロ
25	2013	古典四重奏団	弦楽四重奏
26	2014	下野竜也	指揮
27	2015	川本嘉子	ヴィオラ
28	2016	萩原麻未	ピアノ
29	2017	中村恵理	ソプラノ
30	2018	小倉貴久子	フォルテピアノ
31	2019	吉井瑞穂	オーボエ
32	2020	アントネツコ(主宰:濱田芳通)	古楽アンサンブル